

魚病診断結果

矢野央樹・田中真二・羽生和弘・栗山 功・田路拓人・清水康弘

目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減を図る。

方法

平成30年4月～平成31年3月に水産研究所、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった魚介類について、病気の診断を行った。

結果

総診断件数は300件（海産魚293件、淡水魚7件）で、昨年度の351件より少なく、また過去10年の平均診断件数290件とほぼ同じであった。

魚種、魚病別の診断結果を表1～6に示す。

マダイでは、高水温期にマダイイリドウイルス病が発生したが、昨年度より減少した。また、細菌病ではレンサ球菌症（β）が多発した。寄生虫病では、心臓ヘネガヤ症とビバギナ症の診断件数が昨年度より減少したが、依然として多い。

ブリでは、昨年度より細菌性溶血性黄疸およびレンサ球菌症*Lactococcus garvieae* II型（α II）が多発し、診断件数合計が増加した。

シマアジでは、昨年度と同様、夏季から秋季にレンサ球菌症が多発し、レンサ球菌症（α II）については診断件数が増加した。

マハタでは、昨年度よりウイルス性神経壊死症が減少したが、夏季から秋季にミコバクテリア症およびネオバネデニア症が多発し、診断件数合計が増加した。

ヒラメでは、昨年度よりエドワジエラ症が増加した。

その他の魚種では、カワハギおよびウマヅラハギで昨年度よりビブリオ病およびレンサ球菌症が減少し、診断件数合計も減少した。クロマグロでは、8月に脊椎骨骨折が多発した。

主要病原菌の薬剤感受性試験結果を表7に示す。レンサ球菌症（β）原因菌の感受性は概ね良好であったが、レンサ球菌症（α II）およびビブリオ病原菌では薬剤耐性菌がやや多かった。エドワジエラ症でも一部の薬剤に対する耐性菌が多く認められた。

以上の魚病診断とは別に、マダイで7件、ブリで1件、ヒラメで1件の計9件の健康診断依頼があった。コイヘル

ペスウイルス病については、1件の診断依頼があり、陰性であった。また、ヒラメの放流用種苗のクドア症（*Kudo a septempunctata*）検査を1件行い、陰性であった。

表1. マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
マダイイリドウイルス病	0				1	3		2							6
リンパ性白血病	0												1		1
エドワジエラ症	0	3	2	2	1					1				1	10
滑走細菌症	0	1	3	1											6
ヒバギナ症	0				1		1								2
	1									1					1
	2														1
エドワジエラ症	0			2		3	1								6
	1						1								1
	2										1				1
レンサ球菌症（β）	0				1	4	3								8
	1						1								1
	2					1									1
カブトビア症	0		1												1
スクナカ症	2			1											1
トリコソナ症	0	1			1						1				3
ベコ病	0					1									1
心臓ヘネガヤ症	0					1	9	3				1	1		15
	1						1								1
アモロディスカス症	0		1					1		1					3
ヘネガヤ症	2										1				1
ビバギナ症	0	1					1	1	1	1	2			1	8
	1	2													2
住血吸虫症	0											1			1
カバカ鉤頭虫症	0					1	3	3				2			9
	1						1	1							2
皮膚カサ症	2										1				1
体表白濁症	2									1					1
飢餓による緑肝	0											1			1
体表潰瘍	2			2											2
不明	0						2	1	1	2	1	1			8
計		4	9	6	9	15	27	12	5	6	9	1	4		107

表2. ブリの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
細菌性溶血性黄疸	0									1	2	1			4
	1										1	1			2
レンサ球菌症（α II）	0					1	1	1		1					4
	1							2	1						3
ベコ病	0		1												1
粘液胞子虫性脳脊髄炎	1							1							1
髄炎															
ヘネガヤ症	0						1								1
不明	0	1									1				2
	1						1	1							2
計		0	2	0	0	3	4	3	2	4	2	0	0		20

表3. シマアジの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
マタイトウイルス病	0												1	1	
ヒブリア病	0													1	1
レン球菌症 (α I)	0											1		1	
	1			2		1	1							4	
	2			3	1							1		5	
レン球菌症 (α II)	0												1	1	
	1				1	1	1	2						5	
	2			4	1									5	
ミコバクテリア症	0												1	1	
	1							1	1					2	
吸虫性旋回病	0				2		1							3	
皮膚カサ症	0												1	1	
	2				1									1	
不明	2		1											1	
計		0	1	4	10	2	4	4	1	3	2	0	1	32	

表4. マハタの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ウイルス性神経壊死症	0									1	1			2
	2					1	2							3
滑走細菌症	0									1				1
	1										1			1
ヒブリア病	1										1			1
	2						1							1
ミコバクテリア症	1						1							1
	2						3	3	1					7
アミルウジニウム症	0									1				1
トリコナ症	0											1		1
	1										1			1
	2										1			1
脳粘液胞子虫症	2									1				1
ベネネア症	0												1	1
	2							2						2
	3							1						1
ネベネア症	0									1	1			2
	1									1	1			2
	2						1	1	1	1				4
	3							1						1
住血吸虫症	2									1				1
一時的な環境変動によるストレス	1		1											1
	2		2											2
	3		1											1
不明	0												1	1
	1		1						2					3
	2		1	1			1	1						4
	3							1						1
	10										1			1
	14										1			1
計		0	6	1	0	3	13	11	6	7	3	1	0	51

表5. ヒラメの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
リンホスチス病	1										2			2
滑走細菌症	0							4						4
ヒブリア病	0									2			1	3
エトワシエラ症	0				1	1		1				1		4
	1				1			4						5
	不明												1	1
レン球菌症 (α I)	1				1									1
レン球菌症 (β)	0					2								2
	1				1									1
白点病	0							1						1
スクーパ症	0								1	1				2
トリコナ症	1								4					4
環境障害	0									1				1
不明	0					1	1							2
計		0	0	0	5	3	8	12	1	1	3	0	0	33

表6. その他の魚種の診断結果

(魚種)	病名	年齢	月別診断件数												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(カワハギ)															
滑走細菌症	不明												1	1	2
ヒブリア病	不明												1	1	2
レン球菌症 (α I)	1									1				1	
レン球菌症 (β)	1										1			1	
	不明							1						1	
脳ドブア症	不明												1	1	
粘液胞子虫性やせ病	不明												1	1	
カワハギ小計		0	0	0	1	0	2	0	2	3	1	0	0	9	
(ウマヅラハギ)															
ヒブリア病	不明												1	1	
レン球菌症 (β)	3									1				1	
粘液胞子虫性やせ病	不明												1	1	
不明	0													1	
ウマヅラハギ小計		0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	4	
(マアジ)															
ヒブリア病	1									1				1	
レン球菌症 (α I)	0		1							1				4	
	1									1				1	
削瘦	0												1	1	
不明	0												1	1	
マアジ小計		0	1	0	0	2	2	0	0	1	2	0	0	8	
(クロマグロ)															
マタイトウイルス病	0									1				1	
レン球菌症 (β)	0									1				1	
住血吸虫症	0												1	1	
脊椎骨骨折	0									4				5	
不明	0							2	2					4	
クロマグロ小計		0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	1	1	12	
(トラフグ)															
ヒブリア病	不明									1				1	
トリコナ症	不明									1				1	
トラフグ小計		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
(マアナゴ)															
不明	1	1						2						3	
マアナゴ小計		1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	
(ヒガンフグ)															
エビテリホシスチス病	1									1				1	
トリコナ症	1									1				1	
ペテロホトリウム症	1									1				2	
ヒガンフグ小計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
(メガイアワビ)															
不明	0									1				1	
	1												1	1	
メガイアワビ小計		0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
(クロアワビ)															
ヒブリア病	0									1				1	
不明	0									1	1			2	
クロアワビ小計		0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	
(バテイラ)															
原生生物寄生	不明									1				1	
バテイラ小計		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
(クルマエビ)															
フサリムシ症	0												2	2	
クルマエビ小計		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
(コイ)															
不明	不明									1				1	
コイ小計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
(アマゴ)															
不明	2												1	1	
アマゴ小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
(アユ)															
冷水病	0												1	1	
不明	0									1	1			4	
アユ小計		0	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	5	
合計		1	4	4	6	17	7	5	3	6	6	1	2	57	

表7. 主要病原細菌の薬剤感受性試験結果

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キシロキサクリン				3	3
ホスホマイシン		3			3

エドワジエラ症 原因菌 (ヒラメ)

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キシロキサクリン				9	9
ホスホマイシン			4		4
フロルフェニコール				1	1
チアンフェニコール				4	4
エリスロマイシン		3	1	1	5

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α I)

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン		1		15	16
塩酸キシロキサクリン				17	17
フロルフェニコール				16	16
チアンフェニコール			1	7	8
リンコマイシン	1	2	4	4	11
アンピシリン	1				1

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α II)

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン		2	2	13	17
塩酸キシロキサクリン			1	16	17
フロルフェニコール			3	14	17
チアンフェニコール			1	6	7
オキシリン酸	1				1
リンコマイシン	2	5	5	3	15
アンピシリン		1	1		2

β 溶血性レンサ球菌症 原因菌

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン		2	1	11	14
スピラマイシン				1	1
リンコマイシン	2		2	5	9
塩酸キシロキサクリン				15	15
塩酸トキシキサクリン				1	1
フロルフェニコール				13	13
チアンフェニコール				1	1

ビブリオ病 原因菌

薬剤名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸キシロキサクリン	2			8	10
エリスロマイシン		2	2	1	5
リンコマイシン	3				3
フロルフェニコール		1		5	6
チアンフェニコール	1		1	1	3